

2. 人材を育てる 科学コミュニケーターの養成

科学を伝える人材として科学コミュニケーターの養成に取り組んでいます。

■OJTと研修による人材養成

未来館が展開する日々の活動に業務として携わること(OJT)を通して、基礎力の研鑽と応用力の強化を行いました。さらに、科学コミュニケーション理論の深化や視野の拡大、発想力の強化などをめざした研修を行うとともに、それぞれのキャリアパスを意識した業務体験の機会も充実させました。

▶新人向け初期研修 26項目(約1ヵ月) ※4月・10月実施

- ・オリエンテーション
- ・組織理解: 未来館の科学コミュニケーション活動と科学コミュニケーション活動基本方針について、各部署の活動概要、情報セキュリティ研修、等
- ・フロアでの科学コミュニケーション研修: 解説研修、実演研修、フロア運用研修、等

▶基礎研修・スキルアップ研修 16講座(通年)

- ・基礎研修: 業務基礎研修(調査)、業務基礎研修(広報・メディア活用)、ファシリテーション研修、プレゼンテーション研修、アンケート調査研修、プロジェクトマネジメント研修、メンタルヘルス研修、接遇研修(応用)
- ・発展研修: 企画研修(応用)、ライティング研修、コミュニケーション研修、英語プレゼンテーション研修、英語講演模擬演習
- ・科学コミュニケーション研修: 科学コミュニケーション一日研修(館長・副館長講話等)、科学哲学研修、キャリアプランニング講座

▶分野研究会(科学技術動向調査とディスカッション) 27回

- ・外部講師
2011年8月26日(金): 仁坂田英二(九州大学大学院 理学研究院 助教)
2011年12月19日(月): 福土謙介(東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 環境室リスク管理研究室 准教授)
2012年1月11日(水): 平松正顕(国立天文台ALMA推進室 助教)



企画研修(ディスカッション)



企画研修(実技)

■2011年度の未来館科学コミュニケーター輩出の実績

輩出先業種	大学・研究機関等	科学館・博物館等	教育機関(教員)	企業	その他	計
人数	2名	3名	2名	2名	7名	16名

※開館から2011年度末までに159名の科学コミュニケーターを輩出しています。

■科学コミュニケーター事業評価委員会

今後の方針・計画の改善を図ることを目的として、外部有識者からなる評価委員会を設置し、事業評価を実施しました。評価結果は「A:適切である」でしたが、指摘事項を事業に反映することとしました。

開催日: 2011年8月31日(水)、9月27日(火)(2回)

委員長: 北原和夫(東京理科大学大学院 科学教育研究科 教授)

委員: 小川義和(国立科学博物館 事業推進部 学習企画・調整課長)

川井恵美子(サントリービジネスエキスパート株式会社 お客様リレーション本部 次世代環境教育「水育」推進グループ 課長)

小泉周(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構・生理学研究所 准教授)

佐倉統(東京大学大学院 情報学環 教授)

千葉和義(お茶の水大学 サイエンス&エデュケーションセンター 教授)

早川信夫(日本放送協会 解説委員室 解説主幹)

平田オリザ(大阪大学 コミュニケーションデザインセンター 教授)

藤井春彦(埼玉県立総合教育センター 所長)

古田豊(立教新座中学校高等学校 教諭)

保坂直紀(読売新聞東京本社 科学部 次長)

増田俊彦(静岡科学館・く・る 館長)

横山広美(東京大学大学院 理学系研究科 准教授)

(講師・委員などの敬称略)

2. 人材を育てる 科学コミュニケーター外部研修

外部向けの科学コミュニケーター育成プログラムとして、短期研修と長期研修を実施しました。

■短期研修

科学コミュニケーターの基礎となる情報コーディネーション、プレゼンテーション、ファシリテーションをそれぞれ2日間の講義とグループワークより学びます。

▶カリキュラム

各講座とも、[グループワーク+演習+ディスカッション]形式で3つのスキルを体系的に学びます。

情報コーディネーション講座 科学技術を分析する視点の深化	プレゼンテーション講座 プレゼンテーションスキルの向上	ファシリテーション講座 科学コミュニケーションの構築力の強化
・科学情報を論理的に評価する ・情報の社会的価値について考える	・プレゼンテーションの意義を考える ・話す人を観察する	・コミュニケーションの阻害要因を理解する ・ファシリテーターの役割を考える
・科学記事作成	・プレゼンテーション構成と発表	・科学コミュニケーション企画の立案
・総括ディスカッション [講座と自分自身の活動をつなぐ]	・総括ディスカッション [講座と自分自身の活動をつなぐ]	・総括ディスカッション [講座と自分自身の活動をつなぐ]



短期研修

▶2011年度受講生内訳

短期研修(2日間・10時間) 合計のべ200名(修了者58名)受講

[情報コーディネーション講座] のべ67名

[プレゼンテーション講座] のべ66名

[ファシリテーション講座] のべ67名

(受講者の属性) 小・中・高教員(理数系) 61名、小・中・高教員(理数系以外) 6名、
広報担当者 13名、研究者(大学教員・企業研究者) 31名、
博物館・科学館職員 21名、NPO/公的機関職員 2名、
大学院生 40名、その他 20名

※「科学コミュニケーター研修プログラム」は、教員免許状更新講習として文部科学省から指定を受けています。のべ200名の受講者のうち38名が教員免許状更新講習対象者です。

■長期研修(1年コース)

埼玉県教育委員会より高校教員(2名)を受入れました。日々の実践を通じて科学コミュニケーションの意義を理解し科学コミュニケーターとしての総合力を高めると共に、研修後も自身の活動に還元可能な企画の開発に取り組みました。

▶研修テーマ

- ・学校と研究機関の連携ネットワークの構築について
科学コミュニケーション・ワークショップ「エネルギー問題、どうする?」の開発
- ・研究機関と学校との連携による科学教育の推進
科学コミュニケーション・ワークショップ「巡回展パネル(放射線パネル)を活用した科学プレゼンテーションプログラム」の開発



長期研修

2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター ①

日本科学未来館での科学コミュニケーション活動をとおして、科学技術と社会をつなぐ役割を果たしています。2011年度に活動した科学コミュニケーターを紹介します。



天野春樹

磁性研究装置の研究開発をテーマに理学修士を取得。専攻とあわせて取り組んだ科学コミュニケーション活動の中で、人の考えを引き出し気づきを共有することの面白さに衝撃が走り現職に。イベント「語る！科学の第一歩」では、研究者の素顔を引き出すための場作りに挑戦。挑戦はまだ続く。



荒川裕司

大学では有機化学の分野で修士課程を修了。日本を支える科学技術に対して、市民の理解があまり得られていないと感じ、科学コミュニケーションに興味を持つ。フロアでは、来館者に少しでも楽しんでもらえるコミュニケーションがしたい。



五十嵐海央

海洋生物資源学(修士)。環境教育に携わった後、科学的な視点での伝え方を求めて未来館へ。未来館の活動を通じ多様な場面で科学コミュニケーションを行ってきたが、どんな時でも相手と状況に合わせたアレンジのきく、しなやかな科学コミュニケーターでありたい。



出井正道

高校で微生物を用いた商品開発に携わる。大学で微生物学、食品科学を学んだ後、研究所に勤務し、水素・メタン二段発酵のプロジェクトに参加。2006年度から日本科学未来館に勤務。微生物にロマンを感じている。科学を知ることによって視界が広がっていく感動を多くの方々と共に共有したい。



井上直子

化学専攻(修士)。2006年から未来館の展示フロアにて科学コミュニケーションを行なっている。メーカーの技術営業職で培った相手の考えを引き出すノウハウに加え、来館者とともに考えることで、科学のおもしろさ、奥深さに気づいてもらったときは、最高の喜びである。



大崎章弘

機械工学専攻。博士後期過程退学後、大学助手を経て2009年10月より現職。前職では空中描画による表現活動の探求、体験型装置の研究開発等を行ない、現在は自身をインタフェースに来館者の気づきや表現を引き出す対話や場づくりを実践中。専門はヒューマン・インタフェース、共創デザイン。



大西将徳

博士(人間・環境学)。日本学術振興会特別研究員、高等工業専門学校非常勤講師などを経て現職。「科学者だけが未来を決めるのではない。未来はみんなで創るもの」という思いから日本科学未来館へ。未来館が、多くの人が議論し、明るい未来を描き出す場となることをめざしている。



大堀菜摘子

大学では主に化学を専攻し、その後民間で1年半の勤務経験を経て、2008年10月より未来館へ。科学の楽しさを感じるきっかけを、科学コミュニケーションを通じてもっともらいたいという思いのもと、日々フロアでのコミュニケーションを図っている。



岡山悠子

専門は火山岩石学(修士)。民間で2年間勤務し、2006年国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成講座の受講を機に2007年4月より現職。4年目を迎え、人とのつながりの魅力という原点に立ち返り、あらゆる可能性に挑戦し続けている。



落合裕美

専門は社会学のコミュニケーション論(修士課程修了)。身体行動からみるコミュニケーションの観点から、ファシリテーションを研究。「コミュニケーションを科学する」というテーマのもと、科学と「社会現象や日常生活」の接点を意識した科学コミュニケーション活動をめざす。フロアでどのようなコミュニケーションが起きているのかを調査するため、対話ログを取り、研究中。



川崎那緒人

大学で機械工学を学び、その後生きている細胞のタンパク質を観察する方法について研究(博士号取得)。小難しい科学を、「誰でも実生活で簡単に使える形」に整えることが当面の目標。先端科学の情報が集まる日本科学未来館でイノベーションをおこすべく、研究者と人々との交流のサポート役を志す。



國次 純

工学修士。専攻は環境。干潟やゼロエミッションなどを研究。環境コンサルタントを経て2011年10月に現職。「これからの環境問題」に来館者と一緒に考えていきたい。来館者の「面白かった!」「よく分かった!」の言葉が最高の喜び。未来館大好きっ子。



久保暢宏

専門は表面化学(工学博士)。実験大好き。「見てみる、触ってみる、やってみる」がモットー。私にとっての科学は知らない世界へのパスポート。いつか宇宙へ…と夢見つつ、南極観測隊参加、ちきゅう乗船を目指して修行中。



桑子朋子

大学は得意のカエルで細胞周期を研究。J「生命誌研究館」での企画編集を経て未来館へ。「未来設計会議」イベントの立ち上げ、常設展示「生命の科学と人間」改修企画、公式Twitter企画、研究者アウトリーチ協力などを行なう。めざすは、未来に咲く種となるモノづくり。



小林直樹

博士(医学)。免疫学を専攻後、ポスドク、特任助教を経て、現職。2011年度は震災時の活動として、webで問い合わせに答える質問箱を担当。また、実験教室DNA鑑定を開発、実施。口ぐせは「忙しくないですよ!」。



佐尾賢太郎

ナノバイオテクノロジーの研究で博士号を取得し、製薬企業での研究員を経て現職。人の喜び顔を見るのが大好き。大切にしているのは「考えること・感動すること・楽しむこと」。科学を通してたくさんの方が考え・感動し・楽しんでくれる仕組みが作れないか日々模索中。



坂巻たみ

航空宇宙専攻。長野県松本で一人乗りヘリコプターの開発に8年携わり、2008年秋より未来館へ。現在一児の母。科学技術のありがたさと生命の神秘を噛み締めながら子育て中。未来館で科学技術にふれた来館者の発する思いがけない一言が仕事を行う原動力となっている。



提髪玲子

発光性昆虫(蛍など)の系統分類で博士号を取得。特別イベント「光る!私の実験室」や「未来館でお月見!」の全体統括など担当。人の心を動かす、自分自身も納得できる仕事を今後も行っていきたい。



嶋田義皓

ひみつ道具で大学に飛び入学し、大学院では光物性物理学の研究で博士号(工学)を取得。理科の視点から日常生活を見つめ、科学を日本固有の文化にしようとして2008年4月より未来館へ。「百聞は一見に如かず」がモットー。物理をきちんと勉強していない理系の蔓延をひそかに嘆いている。



志水克大

ものづくりの職人的かつく良さに憧れて、科学技術の世界に。大学では機械工学を専攻。修士課程修了後、デジタル機器の制御ソフトウェア開発を経て現職。来館者や研究者など、様々な人々との対話・議論を通して、「科学技術の社会的意義」の探求に努める。

2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター ②



鈴木真一朗

未踏ソフトウェア創造事業で培った企画力と実装力を武器に、恋愛支援システムをつくって修士号を取得。その後、商社での研究開発職を経て、2009年10月より現職。認知科学と情報工学の背景をいかし、自分しかできない科学コミュニケーションを見いだそうと日々邁進しています！



外口慶樹

臨場感の高い映像メディアを実現するため、嗅覚刺激の提示が視聴者へ与える心理的効果を研究し修士号を取得。通信機器メーカーで新製品の研究開発を4年間行った後、2008年4月に科学コミュニケーターとして未来館に転職。枠にとらわれず柔軟な視点をもった科学コミュニケーターをめざす。



高橋里英子

理学博士。生物の生態、進化、発生の境界領域をテーマとした研究に従事。GOE研究員などを得て現職。今ここにある世界のすべてには物語があり、そこには科学が深く関わっている。その科学と呼ばれる集合は、いかに切り取れば「未来」と重ねられるのか。その手法を考えていきたい。



高田真希

高校教員、青年海外協力隊を経て2011年1月より現職。協力隊では電気なし、水道なしでもできる限りの実験を生徒と共に楽しむ中で、見て納得することの大切さを実感。現在の目標は、展示を通してその科学技術が何で、どうすごくて、私達とどう関わっているかを相手に合わせて解説すること。



高見裕一

物理学を専攻し微粒子の拡散シミュレーションで修士号を取得。システムエンジニアを経て2008年12月より未来館に勤務。子どもの頃に感じた科学の不思議さや、わかったときの楽しさを伝えるために日々学びと奮闘中。目標は来館者との対話の中で新たな発見を共有すること。



竹下陽子

大学では、ダイオキシン類によるアザラシへの毒性評価を行ない修士号を取得。分析会社での技術職を経験後、「研究成果が国民に伝わる」ことの重要性を感じて科学コミュニケーター職に就く。来館者が新しい視点や世界観に出会えればと、日々奮闘中。



田端萌子

地球惑星科学で修士取得。虫が嫌いで美演に苦戦した経験あり。最近では科学の分野間だけでなく、科学とアートなど様々な分野のインタラクションに夢中。それが科学コミュニケーションを面白くすると信じている。「日々勉強」、「時間厳守」、「南極進出」を目標にフロアで修行中。



千葉磨玲

専門は分子細胞生物学と科学技術社会論。学部時代、アメリカで植物ウイルスの発現機構の仕組みにとりつかれ科学の世界に参入。大学院では、がん細胞の細胞分裂期の研究、そして日本の大学発バイオベンチャーについて研究を行い、2011年4月より現職。「人を育て、社会を変革し、未来を創る」を胸に秘め、日々の科学コミュニケーション活動に勤む。



寺田雅美

進化発生生物学を専攻。研究者を志していたが、「科学ジャーナリズム授業」をきっかけに進路変更。国立公園等インタープリター(環境教育)、某都内科学館インストラクターを経て、現職。世界とのつながりを実感し、日常の深みを見出すコミュニケーションがしたい。愛読書は「センス・オブ・ワンダー」。



寺村たから

ドラえもんを読んで理科好きに。理学修士(化学)。食品メーカー、通信会社を経て未来館へ。展示フロアでの対話業務では「伝える」と「伝える」ことの違いをひしひしと感じている。より広くより楽しくと、科学が「伝える」方法をマスターすることが、未来館在動中の目標。



豊田倫子

小学生の頃から理科全般に興味をもつ。大学、大学院では地球科学、環境学を専攻。医療系メーカーの研究開発職を経て、2008年10月より現職。館内館外の対話を中心とした科学コミュニケーション活動を展開しつつ、新たな科学コミュニケーションの場、表現法を日々模索中である。



西原 潔

大学院と研究所で植物の染色体について研究し、2011年4月より未来館へ。言葉と写真による表現の方法を模索しつつ、科学について語り合うための土壌づくりを目指している。根が寂しがり屋なので、様々な人との出会いを大事にしていきたい。趣味は写真とドライブ。足と頭を使った撮影が目標。



野副 晋

専門は大気環境学。植物から放出される微量成分の測定に関する研究で博士号取得(農学)。生態系の物質循環を調べるため、閉鎖環境に2週間滞在した経験あり。研究員を経て2011年10月より現職。二児の父。楽しいことをできるだけわかりやすく楽しくコミュニケーションできるように日々修行中。科学コミュニケーション界のエンターテイナーを目指している。



野田裕美子

得意科目は「理系科目以外」にも関わらず、海好きが高じて理系へ進学。マリアナ海域深海底の磁化構造解析で修士号取得後、コンサルティングファームを経て、2009度より現職。文系理系関係なく科学に親しめる場をつくり、研究成果や研究者の魅力を伝えたい。科学と観光の協働スキームを模索中。



蓮沼一美

大学では教育学(理科教育)を専攻。科学コミュニケーションの能力を高めるため、2009年4月より未来館へ。新しい科学コミュニケーションのあり方を模索しながらも、日々の業務を楽しんでいる。



長谷川麻子

専門はロシア文学。ロシア語通訳翻訳などを経て、「こんな私が未来館に入ったらいっぱい何が起こるだろう?」という好奇心をコミュニケーターに挑戦。予想通り「科学の常識」と格闘する毎日だが、未知の世界に出会うこの衝撃をいかに伝え、この経験をどう社会に生かすか、それがほんとうの挑戦だ。そして、近くて遠い隣国ロシアと日本をつなぐ仕事もしていきたい。



早川知範

専門は天文学。アメリカ、ニューヨーク州にて博物館学を学び、プラネタリウム解説員を経て2010年4月より現職。英会話講師の経験も持ち、なによりも人と人のコミュニケーションを大切に考える。最近の興味はアジア、特に韓国の科学館。



林田美里

物理学と宇宙をこよなく愛する。米カリフォルニア州にて物理学修士を履修後、帰国。ITエンジニアと英文科学記事執筆を経験して現職に。来館者に「科学する」ことの楽しさを感じていただくことが日々の目標。



細川聡子

植物の匂い認識の研究で修士号を取得。博士課程途中で研究を離れ、大学のシンポジウムやセミナーをインターネットで配信するプロジェクトに従事。2007年度4月より未来館に常勤として勤務。大学や研究所に眠っている驚きと感動を多くの人に伝えたい。



松山桃史

線虫相手に研究生活10年?専門は分子生物学(理学博士)。暗記嫌い、謎解き好き。フクフクする仮定をたてて実験、得られた結果からモデルを立ててさらに検証する、日常生活で役立つ研究の醍醐味を伝えたい。研究者の思考法のちょっとしたコツを、どんな仕掛けで体得してもらおうか、思案中。

2. 人材を育てる 日本科学未来館の科学コミュニケーター ③



水野 壮

ゴキブリや蚊を日々解剖し、農学博士取得。専門は分子生物学、応用昆虫学。昆虫・三国志・科学の三本柱で、科学コミュニケーション活動を行なっていく。展示場内活動歴2年、常設、巡回、企画展示担当歴2年。三国志検定1級取得。食用昆虫科学研究会発起人。



三ツ橋知沙

専門は植物分子生物学(修士)。実験三昧の日々を送るが、さらにおもしろい仕事を求めて研究所から未来館へ。専門外の科学のおもしろさを知り、日々の生活もより楽しくなった。一般社会に伝わる方法を模索中。



村嶋 恵

専門は栄養学(博士)。食べ物がからだをつくっている!ことに感動を覚え、からだと栄養、さらに心と栄養のつながりを研究。日常すぎて科学っぽくない栄養学を、ゆるく科学コミュニケーションしていきたい。



山崎 功

高校卒業後、いろんな人や文化に接したいと思い米国に留学。ミネソタ大学大学院で自然環境教育を専攻。その後10年間ミネソタ科学博物館で勤務。2011年1月から未来館で勤務。外国のお客にも楽しんでもらえる環境を作って行きたい。



渡辺有紀

白衣と実験に憧れ、農学部に進学。イネの害虫抵抗性の研究を通じて出会った留学生たちの話を聞くうち、関心はイネより海外に。修士課程卒業後は、青年海外協力隊でホンジュラスへ渡り、感染症の媒介虫対策に従事。未来館で出会う様々な人との出会いが宝物。



江水是仁

美術系歴史系博物館勤務の後、未来館へ。建築計画の立場から、展示と人との間で起こるコミュニケーションに注目し、展示空間の評価を研究。博士(工学)。社会科学的人文科学的文脈で未来館の「脱構築」が研究課題の一つ。現在、学芸員養成課程の科目を担当、委嘱として未来館の現場に立つ。



尾崎美貴子

高校卒業後、いろんな人や文化に大学では機械工学を専攻。科学技術の進歩はバリアフリーな社会につながる!?との思いで来館者とのバリアフリー化をめざす。自分がわくわくする気持ちを、他の人へ伝えるよう邁進中。



小山内裕美

科学の楽しさを伝える事に興味をもち、2003年より未来館に勤務。一人でも多くの方に「科学って面白い!」と感じていただけるよう、日々、科学コミュニケーションに励んでいる。脳にとっても興味があり、大学院にて生物物理学・神経科学を学び、2010年に博士(理学)。



恩田雄一郎

小さい頃に見たMITのロボコン番組に感動し、科学・機械好きに。買ったチョロQはほとんど解体し、「いい!」と感じていただけるよう、日々、科学コミュニケーションに励んでいる。脳にとっても興味があり、大学院にて生物物理学・神経科学を学び、2010年に博士(理学)。



木邑優子

専門分野は環境教育と持続可能な開発のための教育(ESD)。大学卒業後、スポーツ用品メーカーに勤務。退社後、青年海外協力隊(フィジー)、愛・地球博でインタープリターなど。大学院(ストレスマネジメント領域)ではコミュニケーションについて研究した。モットーは「よく生きる」こと。



幸繁優子

理工学部生物質工学研究室にて、たんばく質の修飾を研究し、natureに掲載。鉄鋼先端技術研究所にて、真空中での原子、分子の動向研究。2006年4月より未来館で、生命工芸担当。遺伝子工学と社会の関わりに興味がある。



笹川浩美

GWイベントは「変化朝顔」担当。サマーナイトは企画から関わる。蛍の光交信・実験・暗闇体験付き「光る!私の実験室〜光を探る生物多様性と地球環境」6回実施。JST先端的科学館連携推進事業、千葉市科学館第1回「地球環境〜蜜蜂に学ぶ生きる知恵」講演。農学博士。研究所大学研究員。



堀 美由紀

アラスカにてインタープリテーションを学ぶ。理学修士(地球環境科学)。専門は極地の植物。2005年より常勤として勤務し、VIP向けの英語ツアー、特別企画展(「マンモスからの警告」展)の展示・イベント企画に携わった。現在、育児しながら「3歳からわかる科学」をめざし、勉強中。



中村江利子

大学で環境科学や生物科学を学び、環境計量士(濃度関係)と技術士補(環境部門)などの環境関連の資格を取得。銀行システム開発の仕事を経験後、大学院に戻り海洋生物の研究で修士を取得。2003年より未来館勤務。海洋生態系や環境問題について強い関心をもっている。



藤谷 哲

大好きな情報科学技術を楽しみご紹介できるサイエンス・コミュニケーション実践の場としての未来館に魅力を感じ、開館時より非常勤で着任。中高講師をしながら2000年博士号(工学)取得。専門は教育工学。現在都内大学准教授。担当科目は教育方法技術、情報科教育法等。

●科学コミュニケーション専門主任



堀井京子

掘り化学専攻で修士取得後、数年間精密機器メーカーにて技術者として開発に携わり、未来館での非常勤勤務に至る。学生時代から歴史、音楽、美術に関心があり、文化や日常生活の一部としての科学、という視点をもってお客様と対話することを心がけている



池辺 靖

理学博士。宇宙物理の分野で、理学研究所、ドイツマックスプランク宇宙空間物理研究所、アメリカNASA/GSFCにおいて9年半の研究生活を経て、2004年より未来館勤務。地球環境とフロンティア分野担当。



小沢 淳

科学技術系シンクタンクを経て現職。専門はコンピュータ・グラフィック。前職では、情報技術を使った近未来社会の予測や、科学技術と文化芸術の融合領域における政策研究などを行なった。未来館では情報科学技術分野の企画を担当。



竹内 恵

工学博士。石油会社の技術者等を経て2003年より未来館勤務。技術革新と未来の分野を担当。



橋本裕子

理学博士。専門は生化学。学術振興会特別研究員、非常勤研究員、民間企業でのサイエンスライター等を経て未来館へ。企画展・医療の常設展示・実験工房・サイエンスカフェなどに関わる。研究者ばかりでなく、誰もが科学を気負わずに語り、人生が豊かになる出会いの場を作っていきたい。